

秋葉侃教授を送る言葉

法学部長 波田 永実

秋葉侃教授は平成二七年三月をもって、本学法学部教授の職を定年退職されました。例えば、平成一三年四月に法学部が開設されて以来、学部教育に専心されました。改めてお礼を申し上げるとともに、法学部における教授のご活躍の一端を紹介することで送る言葉に代えたいと思います。

教授は企業会計法や会社法がご専門で、法学部のビジネス法学科（学部開設当時は企業法学科）の特徴ある科目として開学以来講義を担当されてこられました。その業績の一端は本号でご覧頂けると思います。私が同僚として教授の教育活動に感銘を受けたのは、ゼミの学生に対する親身な指導で、研究室に何時いつでも学生たちが楽しく歓談していただき、たまり場として機能しており、その学生に対する接し方や指導に教育の原点を見た思いがしたものでした。そのせいか、秋葉ゼミは大学祭にもよく参加していましたし、卒業後も何かと連絡を取り合っていました。

また、法学部では特徴ある科目として、学生に法の実験を体験してもらうために法廷傍聴を行っております

が、教授にはずっと引卒や裁判所との打ち合わせを担当していただきました。こうした地味な仕事も嫌がらずに引き受けていただいたことに感謝しております。

本学で仕事をしていく間に、教授は二度の大病を経験され、幸い二度とも職場復帰され定年退職を迎えられたことは、病状やその後の体調を知っている私としても本当にうれしく思っているところです。なお、秋葉教授は本学での教育活動が認められ、名誉教授の称号を授与されましたことはわれわれ同僚一同の喜びとするところです。秋葉教授にはこれからの人生を心身ともに健やかに過ごしていただきたいと願っています。

長い間、ご苦勞様でした。法学部教員一同を代表して感謝申し上げます。